

アキュフェーズ Accuphase

STEREO CONTROL CENTER C-200S



Owner's Manual

このたびはアキュフェーズ製品をお買上げいただきまして誠にありがとうございました。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、出荷にいたるまで数多くの厳しいチェックを受け、その過程及び結果が一台ごとの製品の履歴書として明細に記録され、社内に保管されております。このように完全な品質管理体制の中から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。末長くご愛用下さいますようお願い申し上げます。

お 願 い

お客様カードを付属していますから、これに必要事項をご記入のうえなるべく早く（お買上げ後10日以内に）ご返送ください。

お客様カードと引きかえに品質保証書をお届け申し上げます。

目 次

特長	1
接続方法	2
ご使用前のご注意	3
各部の名称と動作説明	4
ご使用方法	8
保守	10
ブロック・ダイヤグラム	11
保証性能	12
特性グラフ	13

特長

■全段直結A級プッシュプルで構成された高安定度イコライザー回路

全段直結A級方式の完全プッシュプル駆動を採用しているため、NFをかける前の裸特性が著しく改善され、きわめてフィデリティーの高いイコライザー回路となっています。

■どのようなパルスでも忠実に伝送する最大400mVrmsの入力ダイナミック・レンジ

イコライザーの終段には、高耐圧型パワー・トランジスタとプラス・マイナス2電源方式によるA級動作ピュア・コンプリメンタリー回路を採用し、400mVrms(1kHzひずみ率0.01%以下)という大きな許容入力電圧を確保することができました。

■ICLイコライザー入力

イコライザー・アンプの入力はFETを採用し、入力コンデンサーを取り除きました。一段とカラレーションの少ない音質が期待できます。

■低雑音化によりDISC入力換算雑音電圧-135dBV(定格)を実現

超低雑音素子の採用と出力回路およびNFループを低インピーダンス化することにより雑音成分を大幅に低減、DISC入力換算雑音電圧-135dBV(定格)を実現しました。

■幅広い変化特性をもつトーン・コントロール

微細な音質補正ができるように低音、高音ともにターンオーバー周波数を2種類に切り替えてご使用になれます。調整は11接点のロータリー・スイッチによるステップ切替式となっています。

■音質劣化を最小限に抑えてノイズを最大限にカットするサブソニック、ハイ・フィルター

音質劣化を招く超低域ノイズやテープヒスなどの高域ノイズを効果的にカットするため17Hz、18dB/oct.のサブソニック・フィルターおよび8kHz、12dB/oct.のハイ・フィルターを設けてあります。

■プレゼンスを微細に調整するロー・エンハンスメント回路

音楽鑑賞上の量感を重視し、“量感補償スイッチ”を設けました。RIAA特性に対し50Hzで0dB、+0.5dB、+1dBの特性を得ることができます。

■10dBの変化範囲をもつDISCレベル・コントロール

カートリッジの出力電圧はメーカーによってまちまちですが、DISC1、DISC2のレベルを完全に揃えることができるようにDISCレベル・コントロールを設けてあります。

■DISC1入力インピーダンス切替スイッチ

トランス使用のMCカートリッジのために30k、MM、IMカートリッジのために47k、100kとDISC1の入力インピーダンスは3通りに切り替えることができます。

■豊富な入・出力端子

プログラム・ソースの多様化とさまざまな音響機器のテストを目標に、豊富な入・出力端子を設けました。合計10系統の入力端子と、合計7系統の出力端子を備えています。

■3台のテープ・レコーダー接続可能、独立したテープ・コピー・スイッチ

3台のテープ・レコーダーが接続でき、このうち2台で相互ダビングができます。コピー・スイッチがモニター・スイッチと別になっていますので、他のプログラム・ソースを聞きながら全く独立した状態で2台のテープ・レコーダー相互間のダビングが可能です。

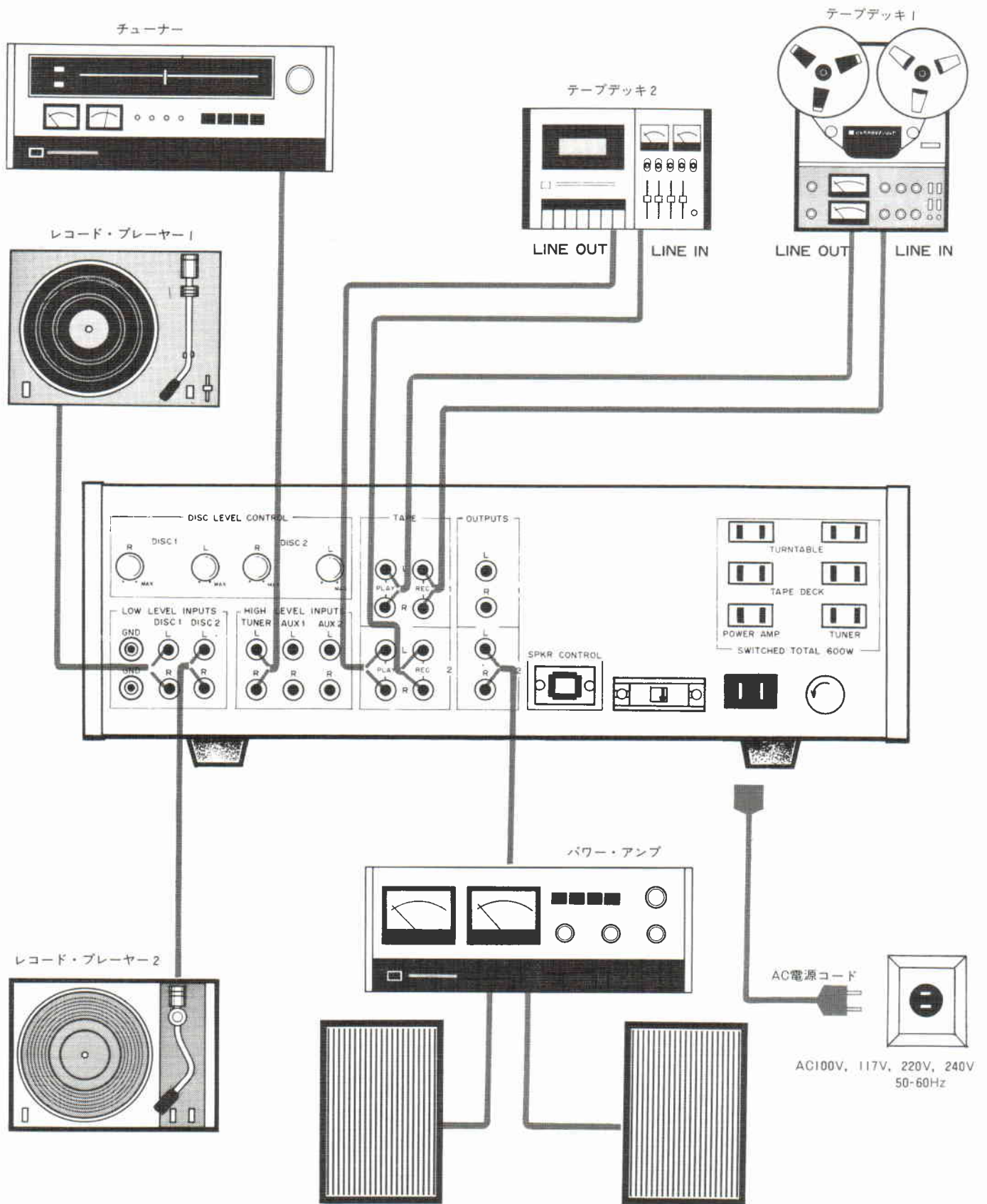
■ピュア・コン直結のヘッドホン専用アンプ

ヘッドホンで音質チェックができるように、ピュア・コン直結の専用アンプを設け、高いフィデリティーを確保しております。

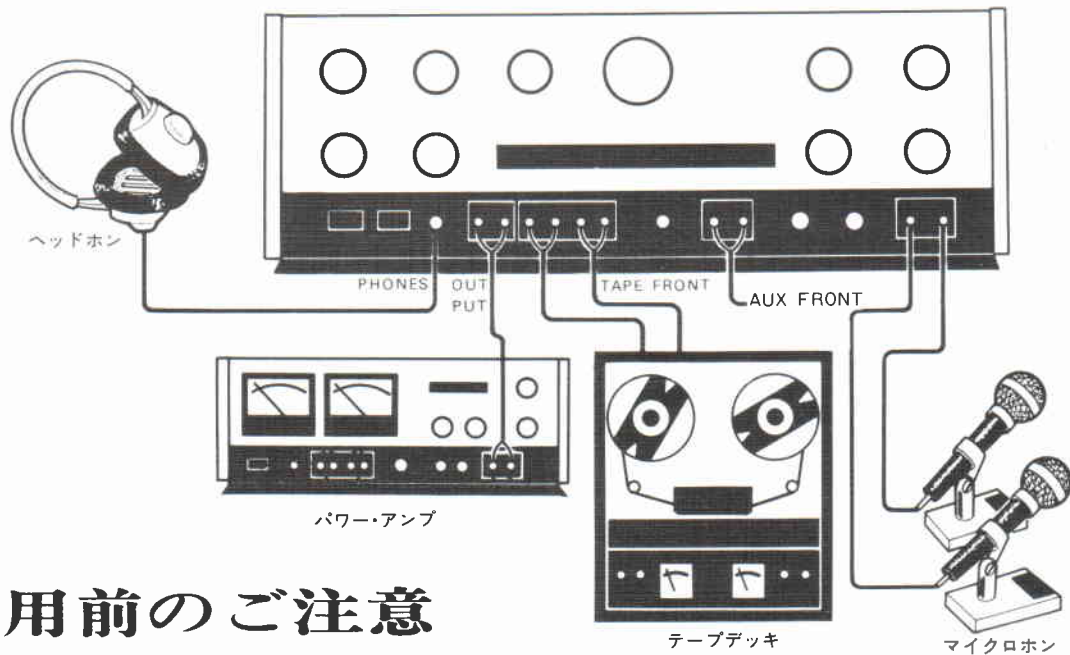
■定電圧電源による安定化

全増幅段を完全に定電圧化された電源より供給していますので、いかなる信号に対しても全く電圧変動がありません。また一次側電源電圧の変動に対してもきわめて安定な動作をしています。

接続方法



AC電源コード
AC100V, 117V, 220V, 240V
50-60Hz



ご使用前のご注意

■サブパネルの開閉について

本機のサブパネルは、マグネット・キャッチにより固定されています。開く場合は、サブパネルの中央部を押しますと上端が少し開きますから、あとは手で開けてください。閉める場合は、いったんマグネット・キャッチまで閉めたあと、手で押し込んでください。

■使わない入力端子にはショート・ピンプラグを差し込んでください。

DISC1、DISC2それぞれの入力端子にショート・ピンプラグがセットされています。DISC1の入力端子のみ使用するとき、DISC2の入力端子はそのままショート・ピンプラグでショートしておいてください。抜き取ったショート・ピンプラグは、TUNER、AUX、TAPE PLAYの各入力端子で使用していない端子がある場合は、その端子に差し込んでおいてください。

TAPE RECおよびOUTPUTSの各出力端子には絶対に差し込まないようにしてください。ここにショート・ピンプラグを差し込みますと音が出なくなります。

■発熱と使用上の注意

本機のイコライザー・アンプ回路は電力増幅用トランジスタを用いたA級ドライブになっていますので多量の熱を発生します。したがって使用中にケース上面をさわりますとあつく感じますが動作、耐久性には全く支障はありません。別売のウォールナット・キャビネットA-2型に本機を入れたときのクーリングは十分に考慮してありますが、通風の悪いケースへの収納はさけてください。

■AC電源について

電源電圧が90V以下または110Vをこえている場合は、ス

ライダックなどで規定の100Vにしてご使用ください。

一部117V地域でご使用になる場合は、10ページ“電源電圧の切り替えについて”を参照してください。

■入出力コードを抜き差しする場合は、必ず電源を切ってから行なってください。

RCAタイプのピンプラグ（通常のオーディオ機器に使用されているもの）をジャックから抜き差しするときは、(+)側、(-)側ともに同時に入ったり切れたりせず、(+)側が先に入ったり、残ったりする構造のため、一瞬(-)側が浮いた状態となって大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となります。

プリアンプ、パワー・アンプの入出力コードを抜き差しする場合は、必ず電源をOFFにしてから行なってください。

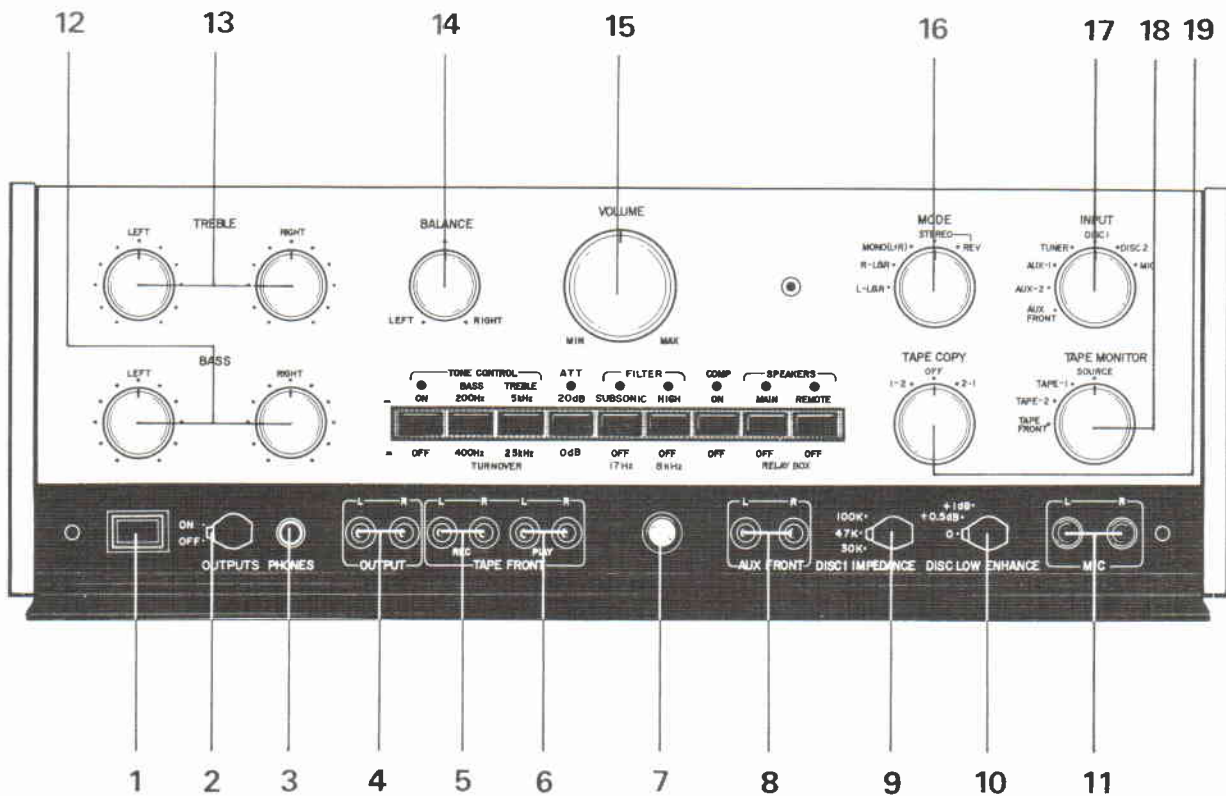
■レコード・プレーヤーなどを操作する場合は、必ず本機のVOLUMEを下げてから行なってください。

本機に広帯域ハイ・パワー・アンプを接続してご使用になる場合、カートリッジをレコード盤面から上げたり下げたりするとき、聴感上それほどの音圧を感じなくても、スピーカーに超低域の大電流が流れて破損する場合があります。このような場合、必ず本機のVOLUMEを下げてから行なってください。また入出力コードを抜き差しする場合は必ず電源を切ってから行なってください。

■直射日光の当たる場所、極端な高温、低温でのご使用はさけてください。

本機の上面および左右はなるべくふさがないようにし、通気のよい場所でお使いください。直射日光の当たる場所や、暖房器のすぐ近くの場所などへの設置はさけてください。

各部の名称と動作説明



①電源スイッチ

押し込んだ状態で電源が入り、再び押しと切れます。
電源を入れてから回路が安定な状態になるまで約3秒間はミュート・リレーが動作して出力はありません。

②OUTPUTS——出力ON/OFFスイッチ

このスイッチをOFFにしますとリア・パネルの2系統の出力とフロント・サブパネル内④OUTPUTからの出力がなくなります。

ステレオ・ヘッドホンのみを使用するときに有効です。

③PHONES——ヘッドホン・出力ジャック

ステレオ・ヘッドホンで音質のチェックをする場合、このジャックに4~16Ωのヘッドホンのプラグを差し込んでください。ヘッドホンでも、本機のOUTPUTS端子にはそのまま信号が出てきますのでヘッドホンのみ使用のときは②OUTPUTSをOFFにしてください。

④OUTPUT——出力端子

リア・パネル側2系統のOUTPUTS端子と同じように使用できます。

⑤TAPE FRONT REC——テープデッキ録音端子

テープデッキで録音する場合の録音信号出力端子です。テープデッキのLINE IN端子に接続します(なお、リア・パネルにも2系統の出力端子が出ています)。

⑥TAPE FRONT PLAY——テープデッキ再生端子

テープデッキで再生する場合の入力端子です。テープデッキのLINE OUT端子に接続します。この端子から再生する場合は⑱TAPE MONITORスイッチを“TAPE FRONT”の位置にセットしたときのみ有効です(なお、リア・パネルにも2系統の入力端子が出ています)。

⑦マグネット・キャッチ

サブパネルを固定するマグネットですが③PHONESのON/OFFスイッチもかねておりますので、押し込んだ状態でヘッドホン出力はなくなります。

⑧AUX FRONT——予備入力端子

この入力端子は⑰INPUTセレクターを“AUX FRONT”にセットしたときのみ有効です。

⑨DISC 1・IMPEDANCE——DISC 1 入力端子インピーダンス切替スイッチ

DISC 1に接続したレコード・プレーヤーのカートリッジ

のインピーダンスに合わせます。MM型やIM型カートリッジの場合は47k Ω 、100k Ω のどちらかでお使いください。MC型でトランスを使用する場合は30k Ω ポジションまたはそのトランスの指定インピーダンスに近い値を選んでください。

⑩DISC LOW ENHANCE——量感補償スイッチ

イコライザ特性を若干変えて、低域の量感を補償するスイッチです。RIAAカーブに対し、50Hzで0.5dBまたは1dB持ち上げます。0の位置では正確なRIAAカーブになります。

⑪MIC——マイク入力ジャック

このマイク入力ジャックは⑫INPUTセレクターを“MIC”の位置にセットしたときに動作します。適合マイクのインピーダンスは50k Ω 以下です。できるだけ600 Ω 前後のローインピーダンス型の良質なマイクをお使いください。

⑬BASS——低音調整スイッチ

⑳TONE CONTROLをONにしたときのみ動作し、中点より右側へ回すと低音増強、左側へ回すと減衰します。ステップ式となっており、㉑TONE CONTROLのBASSでターンオーバー周波数を200Hzにした場合、50Hzで ± 10 dB、またターンオーバー周波数を400Hzにした場合100Hzで ± 10 dBの変化が得られます。

⑬TREBLE——高音調整スイッチ

⑳TONE CONTROLをONにしたときのみ動作し、中点より右側へ回すと高音増強、左側へ回すと減衰します。ステップ式となっており、㉒TONE CONTROLのTREBLEでターンオーバー周波数を2.5kHzにした場合、10kHzで ± 10 dB、またターンオーバー周波数を5kHzにした場合、20kHzで ± 10 dBの変化が得られます。

⑭BALANCE——ステレオ・バランス調整

右側に回すと左側の音が小さくなり、左側に回すと右側の音が小さくなります。

⑮VOLUME——音量調整

右側へ回すと音量が増大します。

⑯MODE——モード切替スイッチ

L→L&Rの位置では両スピーカーから左チャンネルの音が、R→L&Rの位置では両スピーカーから右チャンネルの音がでできます。

MONO(L+R)の位置では左、右チャンネルがミックスされて出てきます。

STEREOでは、完全に左右にセパレートしたステレオ再生となります。

REVでは、ステレオの左右チャンネルを入れ替えて再生できます。

⑰INPUT——入力セレクター

このスイッチでそれぞれの入力端子に接続したプログラム・ソースを切り替えて聞くことができます。

⑱TAPE MONITOR——テープモニター・スイッチ

SOURCEの位置ではTAPE PLAY端子以外の入力端子からの入力が再生できます。したがってテープ再生以外のときは、必ずこのスイッチはSOURCEの位置にセットしてください。

テープ再生の場合は、それぞれのTAPE PLAY端子に接続したテープデッキをこのスイッチで選択してお聞きください。

録音の場合は、SOURCEの位置でプログラム・ソースのチェック、各TAPEの位置で録音されたテープのモニターが録音しながらできます(3ヘッド・テープデッキの場合のみ)。(9ページ参照)。

⑲TAPE COPY——テープ・ダビング・スイッチ

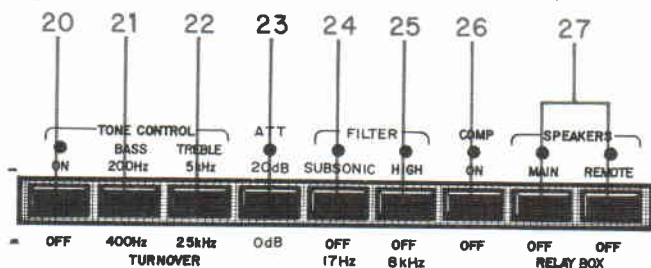
テープデッキを2台使ってテープのダビング(複写)をするときこのスイッチを使います。

TAPE 1に接続したテープデッキからTAPE 2に接続したテープデッキにダビングする場合は、TAPE 1→TAPE 2にセットします。TAPE 2→TAPE 1はその逆となります。

このダビングは、⑱のTAPE MONITORスイッチを、SOURCEの位置にしておけば、他のプログラム・ソースをお聞きになりながら全く独立してダビングを続行することができます。

TAPE 1→TAPE 2でダビングしている場合、⑱TAPE

各部の名称と動作説明



MONITORスイッチをTAPE 1にセットすればTAPE 1の再生状態のチェック、またTAPE 2にセットすればダビングされたテープをモニターしながらダビングができます。TAPE 2→TAPE 1のダビングの場合も、同じ要領でモニターできます。(9ページ参照)。

⑳ トーン・コントロールON-OFFスイッチ

このスイッチを押すことにより、トーン・コントロール回路がONとなり、BASSおよびTREBLEコントロールが動作します。再びスイッチを押すとトーン・コントロール回路はOFFになりBASS, TREBLEがいかなる位置にあってもフラット特性となります。

㉑ BASS——低音調整ターンオーバー切替スイッチ

低音調整のターンオーバー周波数を200Hzと400Hzに切り替えるスイッチです。押し込んだ状態が200Hz、再び押しボタンが出た状態が400Hzとなります。

㉒ TREBLE——高音調整ターンオーバー切替スイッチ

高音調整のターンオーバー周波数を2.5kHzと5kHzに切り替えるスイッチです。押し込んだ状態が5kHz、再び押しボタンが出た状態が2.5kHzとなります。

㉓ ATT——アッテネーター

このスイッチを押し込みONにしますと、出力レベルが20dB減衰します。VOLUMEを一定のレベルに上げて比較試聴をするときなど、レコードの頭出しのときに便利です。また、瞬時にレベルを下げたいときなどにも有効です。

㉔ SUBSONIC FILTER——サブソニック・フィルター

このスイッチをONにしますと、可聴帯域外の超低域

17Hz以下を18dB/oct.という急峻な特性でカットし、超低域ノイズによる可聴帯域内への悪影響を取り除くことができます。

㉕ HIGH FILTER——ハイカット・フィルター

高域雑音除去用フィルターで、8kHz以上を12dB/oct.でカットします。

㉖ COMP——コンベンセーター

小音量でお聞きになるときは低音が不足して聞こえませんが、それをVOLUMEと連動して補正するのがコンベンセーター・スイッチです。押した状態でONとなり、音量調整-30dBのとき50Hzにおいて9dBまで持上がります。

㉗ SPEAKERS——スピーカー切替スイッチ

スピーカーとパワー・アンプの間に別売りのリレー・ボックスを取付け、そこから本機リア・パネルのSPKR CONTROL端子に接続しますと、このスイッチで2組のスピーカーの切り替えができます。

㉘ DISC LEVEL CONTROL——ディスク入力レベル調整

DISC 1またはDISC 2に接続されたプレーヤーの出力電圧が大きすぎる場合にこのつまみで調整します。2台のプレーヤーの試聴をする場合に、それぞれの出力電圧が異なっているときなども、このつまみで同じレベルに合わせてください(通常は最大の位置でお使いください)。

㉙ LOW LEVEL INPUTS——低レベル入力端子

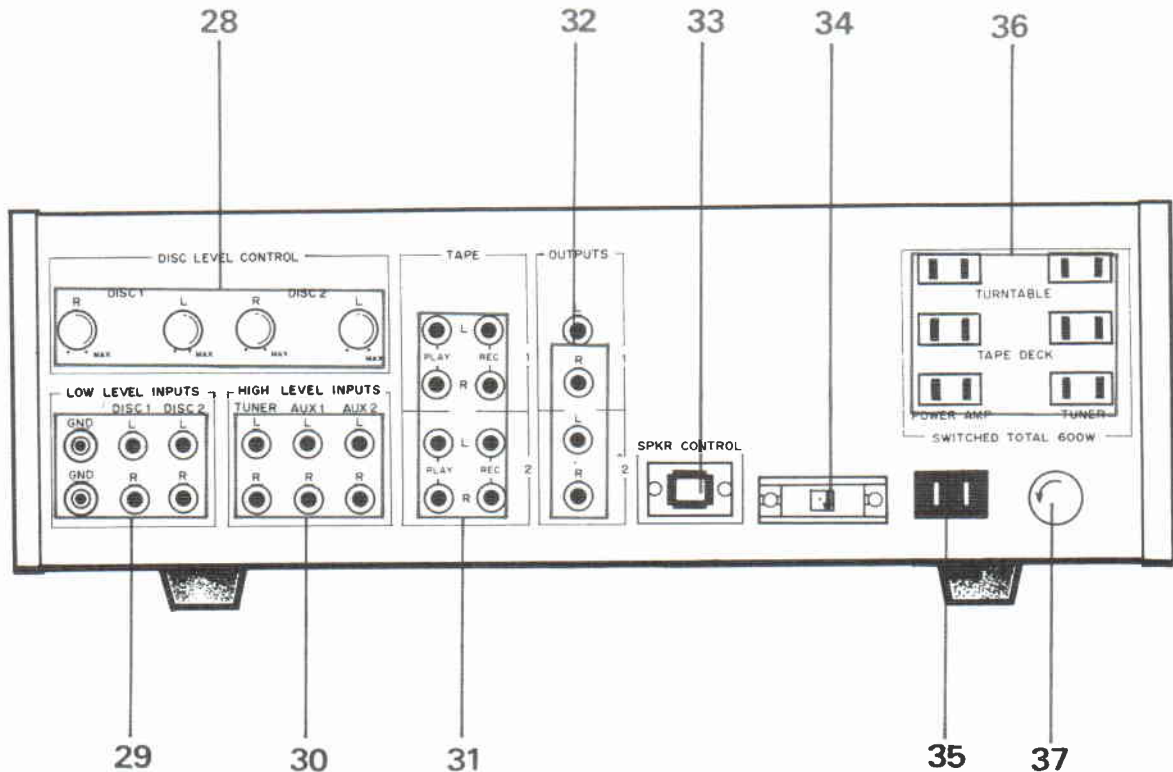
レコード・プレーヤーを接続する入力端子です。DISC 1, DISC 2とも入力レベル調整, DISC 1は入力インピーダンス切り替え(フロント・サブパネル内)ができます。

DISC 1, DISC 2ともにショート・ピンプラグがセットされています。

ショート・ピンプラグについてのご注意は3ページをご参照ください。

㉚ HIGH LEVEL INPUTS——高レベル入力端子

TUNERはチューナー入力端子, AUX1, AUX2はそれぞれ予備入力端子です。



③①TAPE——テープデッキ接続端子

PLAYはテープレコーダーのLINE OUT, RECはLINE INに接続します。

③②OUTPUTS——出力端子

通常は①, ②どちらか一系統の出力端子L, Rをそれぞれパワー・アンプのINPUT端子L, Rへ接続します。本機にはリア・パネル側に2系統, フロント・サブパネル内に1系統の出力端子をそなえておりますので, 2台以上のパワー・アンプを切り替えて使うときに便利です。

③③SPKR CONTROL——スピーカー・コントロール

スピーカー——パワー・アンプ間に別売リレー・ボックスを取付け, そこから専用コードでこの端子に接続しますと, フロント・パネルの②⑦SPEAKERSで2組のスピーカーの切り替えができます(接続および使用方法はリレー・ボックスの説明書を参照)。

③④電源電圧切替スイッチ

ご使用になる地域の電源に合わせて電源電圧を切り替えるスイッチです。(10ページ参照)

③⑤AC電源コード受口

付属のAC電源コードを差込んでください。

③⑥SWITCHED——電源スイッチ連動コンセント

それぞれ本機と接続する他の機器の電源をこのコンセントからとりますと, 本機の電源スイッチによってすべての電源のON/OFFを一斉におこなうことができます。

接続する機器の消費電力が600Wをこえないように注意してください。

③⑦ヒューズ

A C1次側に入っているヒューズです。(10ページ参照)

ご使用方法 [レコード・プレーヤー, チューナーと接続]

■ディスクをお楽しみになる場合

レコード・プレーヤーの出力コードがL, R正しくDISC 1 またはDISC 2に接続されていることを確認のうえ、つぎの手順で操作してください。

- ① レコード・プレーヤーの出力をDISC1に接続してある場合は、フロント・サブパネル内のDISC1 IMPEDANCE切替スイッチをカートリッジのインピーダンスに合わせてください。MM型およびIM型カートリッジの場合は47Kまたは100Kに、MC型でトランスを使用している場合はトランスの指定インピーダンスに合わせます。(通常は30K)
- ② リア・パネルのDISC LEVEL CONTROLをMAXの位置にセットしてください。
- ③ INPUTセレクターをDISC 1またはDISC 2に合わせます。
- ④ MODEスイッチをSTEREOの位置に合わせます。
- ⑤ TAPE MONITORスイッチをSOURCEの位置に合わせます。
- ⑥ VOLUMEを少しずつ上げていきますと演奏が聞こえてきます。
- ⑦ カートリッジの出力が大きすぎる場合は、背面のDISC LEVEL CONTROLで適正值まで調整してください。
- ⑧ 演奏を聞きながらBALANCEツマミで左右のバランスを調整してください。
- ⑨ リスニング・ルームやプログラム・ソースに合わせてトーン・コントロールを調整してください。
- ⑩ 超低域ノイズ(モーターゴロなど)がある場合には、SUBSONICフィルターを入れてください。超低域ノイズによるスピーカーの破損を避けるために、常時ONにしてご使用になることをおすすめします。
- ⑪ DISC LOW ENHANCEスイッチによりイコライザ特性を変化させ、低域の量感を補償することができます。
- ⑫ レコードのスクラッチ・ノイズが気になる場合は、HIGHフィルターをお使いください。

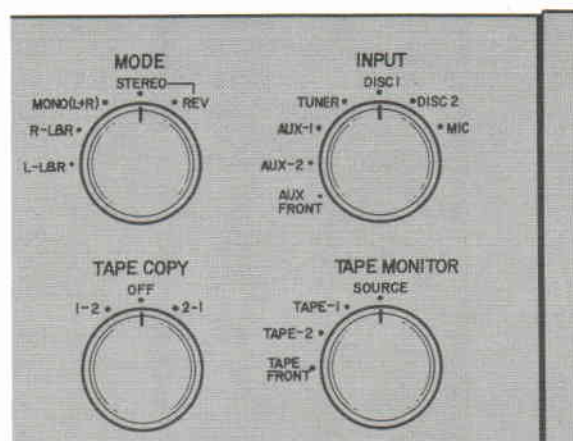
ヘッドホンのみでお聞きになる場合は、フロント・サブパネル内の“OUTPUTS”スイッチで出力を切ってスピーカーからの音を消してください。

■チューナーを接続して放送を聞く場合

チューナーの出力コードがL, R正しくTUNER端子に接続されていることを確認してください。

操作方法としてはディスクの場合と基本的には同じで、INPUTセレクターを“TUNER”に合わせればよいのですが、DISC LOW ENHANCEスイッチは動作しません。

チューナーの出力レベルが高すぎる場合は、チューナー側の出力レベル・コントロールまたはアッテネーターで調整してください。



DISC再生時のツマミの位置

ご使用方法 [テープデッキと接続]

テープデッキとの接続を確認してください (REC端子はテープデッキのLINE IN端子に、PLAY端子はLINE OUTに接続します)。テープデッキの操作はその説明書を参照してください。

■再生

TAPE MONITORスイッチで、お聞きになるテープデッキを選択してください。TAPE1, TAPE2, TAPE FRONTと3系統のテープデッキをそれぞれ切り替えて聞くことができます。

■録音

録音する場合はつぎの手順で行なってください。

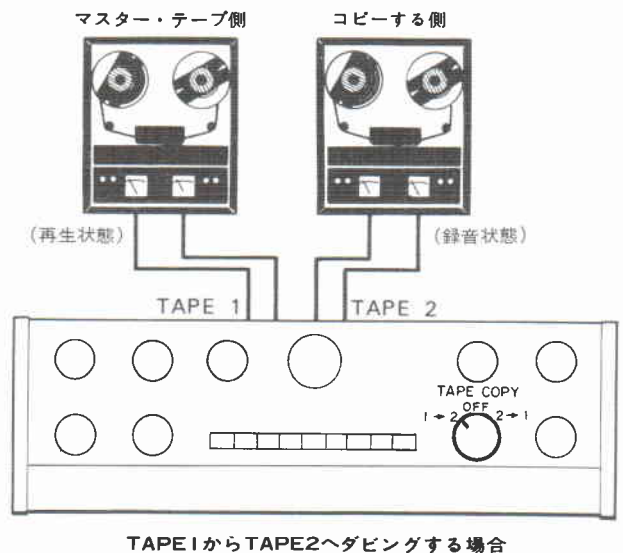
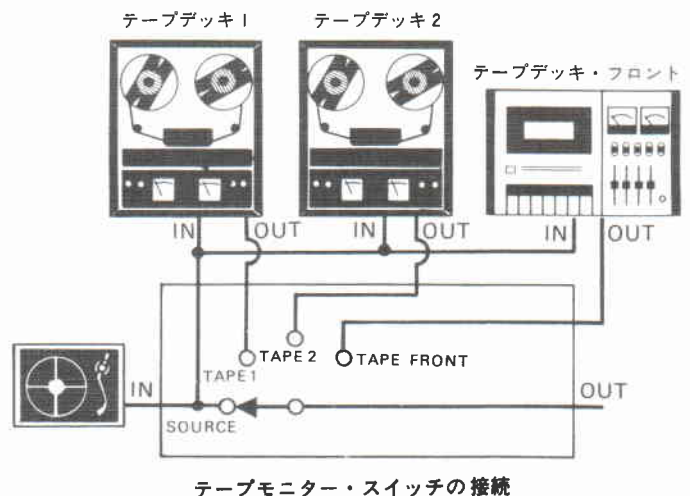
- ① 録音するプログラム・ソースを選び、スピーカーから音を出します。
- ② テープデッキを録音状態にすれば、スピーカーから出ている音が録音されます。
- ③ 本機のVOLUME, TONE CONTROLは録音される音には関係ありません。録音レベルはテープデッキ側で調整してください。
- ④ TAPE MONITORスイッチを録音しているテープデッキに合わせて切り替えますと、録音しながら録音されたテープのモニターができます。(図参照)
- ⑤ 3台のテープデッキを接続して同時に録音ができます。

■ダビングのしかた

本機にはTAPE COPYスイッチが付いていますので、ディスク、チューナーなどを聞きながら、全く独立にテープのダビングができます。ダビングをする場合は、つぎの手順で行なってください。

- ① TAPE 1, TAPE 2にそれぞれテープデッキを接続してください。
- ② TAPE 1をマスターとして、TAPE 2側でコピーする場合はCOPYスイッチをTAPE 1→TAPE 2にセットします。逆の場合はTAPE 2→TAPE 1にセットします。
- ③ マスター側のテープデッキを再生、コピー側のテープデッキを録音状態にすれば、ダビングが行なわれます。

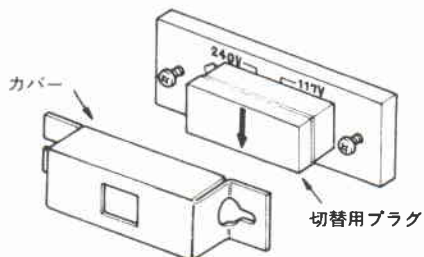
- ④ TAPE 1→TAPE 2でダビングしている場合は、TAPE MONITORスイッチをTAPE 1にしますとマスターテープからの再生が、TAPE 2にするとコピーされたテープのモニターがそれぞれできます。TAPE 2→TAPE 1の場合はこの逆になります。
- ⑤ ダビングが進行している間でも、TAPE MONITORスイッチをSOURCEにセットしますと、ディスク、チューナーなどからの演奏がダビングとは無関係に楽しめます。



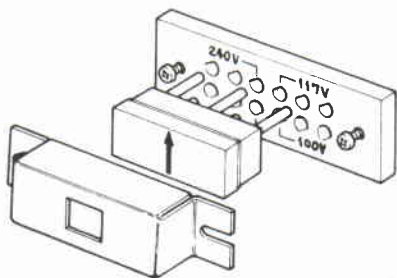
保守

■電源電圧の切り替えについて

リア・パネルの電源電圧切替プラグを固定している金具をはずし、プラグを引き抜いて、プラグ頭部の矢印を目的の電圧値の刻印に合わせて差し込んでください。



①両側のネジをゆるめ、カバーを左右どちらかへずらすとカバーが外れます。



②プラグを引き抜き、プラグの矢印をお使いになる電圧に合わせて、再び差し込みます。



③カバーを取り付け、ネジを締めます。カバーは、プラグの位置によって左右が逆になります。

電源電圧の切替え方

■電源ヒューズの交換

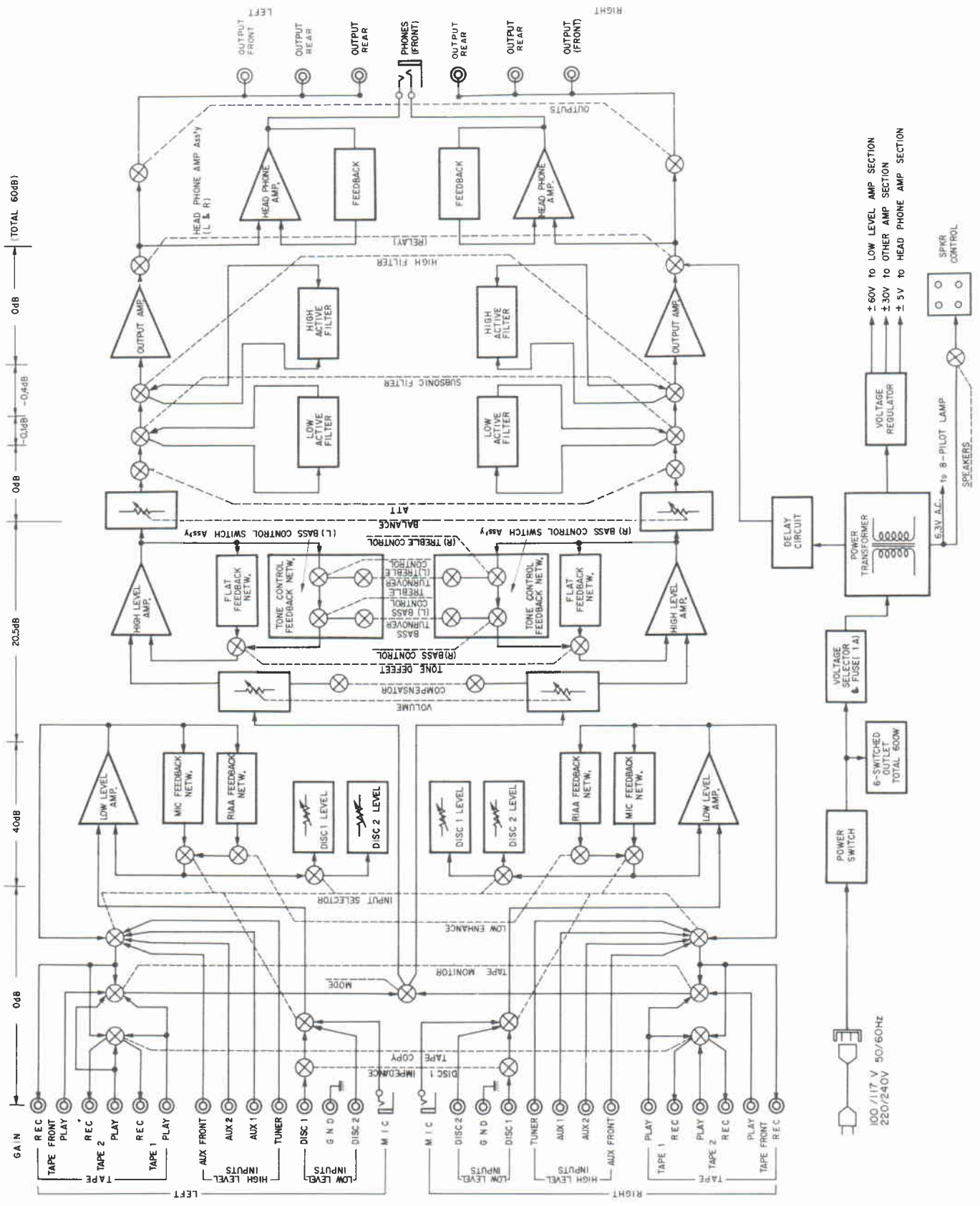
万一、ヒューズが切れてアンプが動作しない場合は、切れた原因を調べその原因を取除いてから、下図の要領で新しいものと交換してください。

ヒューズは特に原因がなくても自然に切れることもあります。ヒューズをお買求めになる場合は、本機お買い上げの専門店にて下記の定格のものをお求めください。

SLOW-BLOW (スロー・ブロー) タイプ 1A



ブロック・ダイヤグラム



保証性能

周波数特性

ハイ・レベル入力 20-20,000Hz +0, -0.2dB
ディスク入力 20-20,000Hz ±0.2dB

高調波ひずみ率

0.01% 20-20,000Hz間 定格出力にて

定格入力, 入力インピーダンス

DISC1	2-6mV*	30K Ω , 47K Ω , 100K Ω
DISC2	2-6mV*	47K Ω
MIC	2mV	47K Ω
TUNER	200mV	47K Ω
AUX1, 2, FRONT	200mV	47K Ω
TAPE PLAY1, 2, FRONT	200mV	47K Ω

*2-6mV間 レベル調整器にて調整可能

定格出力, 出力インピーダンス

OUTPUTS	2.0V*	200 Ω
TAPE REC OUTPUT1, 2, FRONT	200mV	200 Ω

*VOLUME 最大 定格入力にて

最大出力レベル

10V以上 ひずみ率 0.01% 20-20,000Hz間

ディスク最大入力

400mV~1.2Vrms (1kHz ひずみ0.01%)
400mVはDISCレベル・コントロール最大(イコライザ・ゲイン40dB)
1.2VはDISCレベル・コントロール最小(イコライザ・ゲイン30dB)

最小負荷インピーダンス

OUTPUTS	5.0K Ω
TAPE REC	10.0K Ω

ゲイン

TUNER, AUX, TAPE PLAY入力より

TAPE REC OUTPUT	0dB
OUTPUTS	20dB
HEADPHONE	16dB

DISC1, 2, MIC入力より

TAPE REC OUTPUT	40dB
OUTPUTS	60dB
HEADPHONE	56dB

DISC1, 2はレベル調整器付。-10dBまで調整可能, VOLUMEは最大。

S/N, 入力換算雑音

(入力ショート, IHF Aカーブ, S/Nは定格入力時)

ハイ・レベル入力	106dB, -120dBV
DISC, MIC	81dB, -135dBV

音量調整連動誤差

1dB以内

トーン・コントロール

11接点ロータリー・スイッチによる切替式・左右完全独立型

ターン・オーバー, ポイント

{ 低音: 200Hz 400Hz切替
高音: 2.5kHz 5kHz切替

変化範囲

{ 低音: 変化点 400Hz: ±10dB(100Hz) 2dBステップ
" : " 200Hz: ±10dB(50Hz) 2dBステップ
高音: 変化点 2.5kHz: ±10dB(10kHz) 2dBステップ
" : " 5kHz: ±10dB(20kHz) 2dBステップ
トーン・コントロール ON=OFFスイッチ付

DISC ロー・エンハンスメン

RIAA基準特性に対し, 0dB, +0.5dB, +1dB (50Hz)
(量感補償回路)

アッテネーター

-20dB

コンペンセーター

ターンオーバー 250Hz, 50Hz: +9dB

音量調整-30dBにて

フィルター

サブソニック・フィルター: 17Hz (18dB/oct)

ハイ・フィルター : 8kHz (12dB/oct)

HEADPHONE

出力インピーダンス 0.3 Ω

出力(8 Ω 負荷) 0.8W 1kHz ひずみ0.03%

電源及び消費電力

100, 117, 220, 240V, 50-60Hz 消費電力 60W

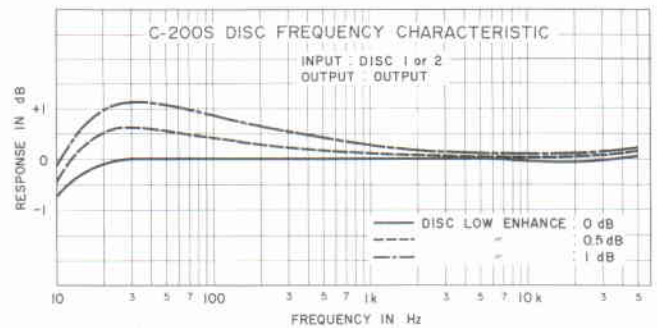
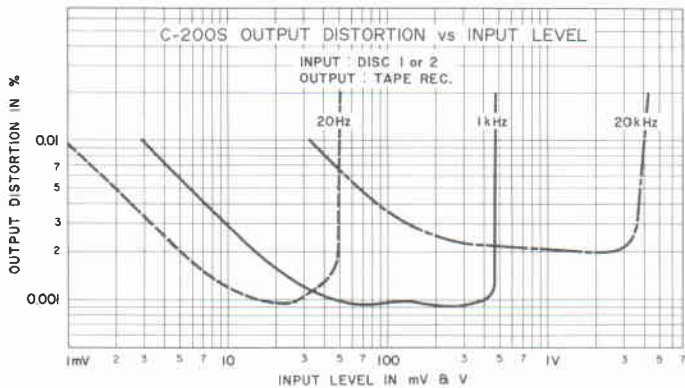
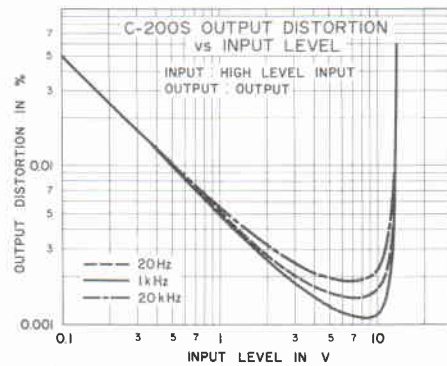
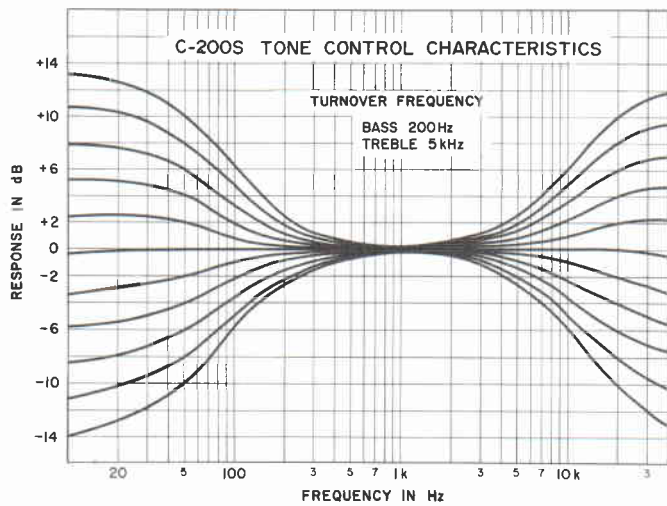
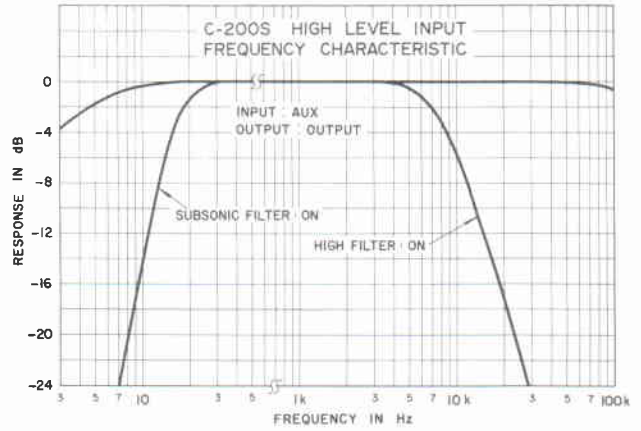
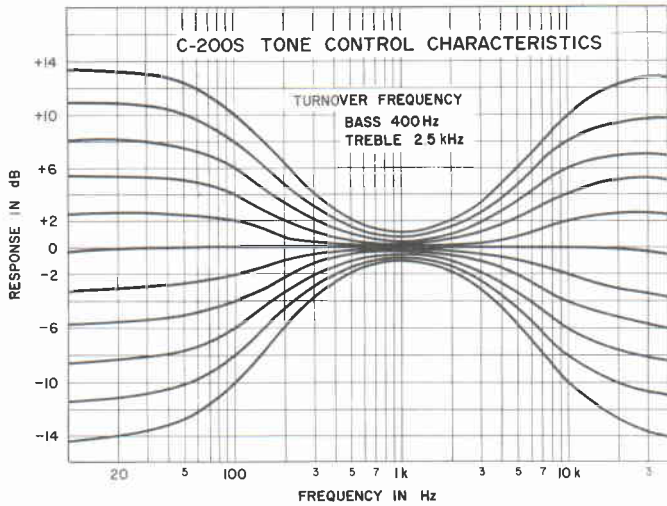
使用半導体

99Tr, 8FET, 28 Diode

寸法・重量

幅445mm×高さ160mm(脚含む)×奥行355mm 14kg

特性グラフ





ケンソニック株式会社

横浜市緑区新石川 2-14-10 〒227
TEL (045) 901-2771(代表)